

## コラム

# 全労連女性部の定期大会に参加して

全労連女性部は9月7～8日、全労連会館で第30回定期大会を開催しました。13単産33地方の代議員と傍聴、役員事務局など126人が参加し、30人が発言。2019年度運動方針、スローガン、新役員体制、大会宣言などを満場一致で採択しました。この女性部定期大会に参加した0さんから大会参加の感想が寄せられました。

## とても元気をいただきました

私は、今回の全労連女性部の定期大会に参加したのは、ある目的がありました。「子育てしながらどうやって活動を継続しているんだろう。」そんな気持ちでした。

実際、自分は4歳になる次男が今年で4回目の入院となりました。それに伴い、長男も精神的に不安定に。やはり、「無理か…」と活動をあきらめたら、「仕事か」「家庭か」を選択しなければならない日がくるのだろうか…そんな気持ちで日々を過ごしています。

この悩みは他の地域労組も同じであり、女性部が無くなって来ている地域も。特に、こどもを抱える女性はなかなか活動に参加できない…。それは共通の課題のようです。

2018年度はブロックでの女性部会が開催されていました(残念ながら私はそれにもいけず、報告を聞くのみでした。)。他の地域では、再び女性部が立ち上がり、神奈川では争議団の連絡会ができた、と新たな展開を迎えており、とても元気を頂けました。

## はじめて聞いた日航争議団長のスピーチ

初日最後に争議団紹介があり、日航の争議団長のスピーチを初めてききました。

「8年前日航が大規模なリストラを強行したとき、年齢が上だった私が一番はじめにリストラされた」という報告はとても衝撃的でした。

私は、その頃、まだ労働組合活動はしていませんでしたが、巷では、「組合があると給与が高い社員ばかりが残るから人件費が高くなり、結果的にクビが回らなくなる」という話をちらほら聞いていました。しかし、実情はだいぶ違う!!

経営破綻の根本原因は経営層による『ずさんな投資』であり、その責任を労働者にかぶせた。

争議団長は日航の中ではベテラン中のベテランだったのではないかと。空の上で何かあれば乗客は客室乗務員他、グランドスタッフも含めて頼らざるを得ない(電車の場合は窓を開けて外に逃げてもできる…それも問題ですが…)。乗客の安全確保を考えず、一律に年齢でリストラを敢行した手法は許されない。(今ごろですみません。)

気がつけば、今でもそんな例がたくさんあります。

老後2000万円の年金問題にしても、年金管理会社によるずさんな投資損失を私たち一般の人たちにかぶせようとしている。日航は大規模なリストラで、今や増収増益を生み出す一大企業へと生まれ変わりましたが、その手法は、決して許してはならない。日航の事件は『対岸の火事』ではない。

産業を超えて、地域を超えて、性別を超えて、年齢を超えて、

私たちの権利を守るためにも手に手を取り合って団結しよう!! そう思えた日になりました。